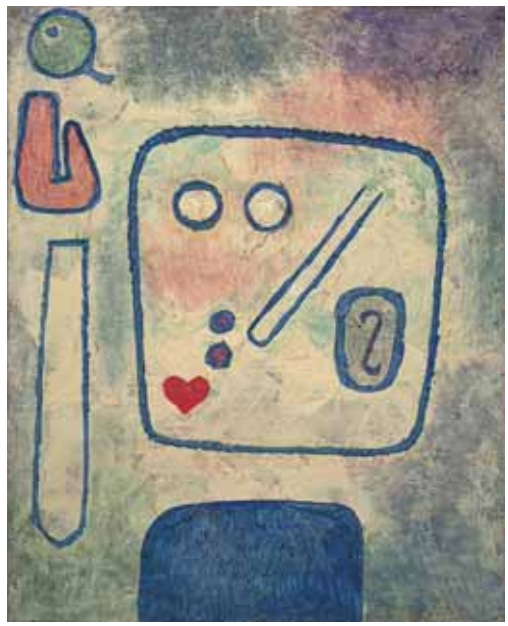
兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART
Sea front
【シーフロント：海岸通り】
兵庫県立美術館「芸術の館 友の会」会報誌
Vol.79
August 2015



《洋梨礼讃》1939年
個人蔵（スイス）、パウル・クレー・センター（ベルン）寄託
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

パウル・クレー
だれにも ないしょ。

2015年9月19日[土]—11月23日[月・祝]

20世紀を代表する画家のひとり、パウル・クレー（1879—1940年）の個展を開催します。繊細な線描と詩情あふれる色彩で日本でも高い人気を誇るクレーの、謎めいた側面に迫る展覧会です。

クレーは「秘密」を愛した画家でした。近年の研究により、例えば作品の下塗りの層や裏側にもうひとつ別のイメージを意図的に「埋蔵」するなど、この画家が仕掛けた密やかな暗号の全貌が明らかになりつつあります。そのようなクレーの「秘密」は後世の人々が気づくか気づかないかの微妙な境界線上にありますが、気づいた時には思わずにやりとさせられる、心憎いメッセージとも受け取ることができるものです。本展では、表側と裏側のイメージが有機的に関連する両面作品を双方が見えるように展示したり、下塗りに埋め込まれたイメージを赤外線写真で掲出するなど、この画家の創意を分かりやすくご紹介します。

また今回の展覧会は、このような物理的なレベルの仕掛けを、クレーの「秘密」を読みとく分かりやすい契機として、イメージのレベルでの謎めいた側面も含めた、彼の奥深い思考と感性に分け入ることを目指しています。

画中に記号を紛れ込ませるのは、クレーがしばしば用いた手法でした。本来それ以外の事物を指し示すものである記号は、クレーの絵の中で何を表しているのでしょうか。記号の向きが変われば意味も変わり、用いられる場面によって異なった働きをするなど、クレー作品の記号は一筋縄ではいきません。本展では、矢印やアルファベット、音楽記号のフェルマータやターンなど、クレーが用いた代表的な記号の数々をご紹介します（本誌掲載《洋梨礼讃》の耳にも、ターン記号が用いられています）。

また、実在はしているものの目に見えず、五感によっては捉えることができない世界を、クレーは「中間の世界」と呼びました。理性の完全な支配を受けていない子どもたちや、いかなる種にも属さない奇妙な動物たち、未熟で不完全な天使たちは、この「中間の世界」に住まう者としてクレーの絵に現れます。彼らは、この画家の世界を案内するよき導き手となってくれることでしょう。

さらに、本展ではクレー自身が「特別クラス」とランク付け、例外的に高値を付けたり、非売とした愛蔵作品40点が集結します。クレーが自分の手元に残しておくための「特別クラス」の作品は、この作家にとって強い愛着のある、正に「特別」に親密なものだったと考えられます。そのようなかつての愛蔵作品が、クレーの内奥にある秘められた感性について鑑賞者にそっとささやきかける働きを担います。

質・量ともに、クレー作品の重要なコレクションを擁するベルンのパウル・クレー・センターおよび遺族コレクションの全面的な協力を得て、日本初公開31点、国内のコレクションを含む約110点あまりを展示します。クレーの秘められた魅力に迫る本展を、是非ともご高覧ください！

（河田亜也子／当館学芸員）

《子どもの胸像》1933年
パウル・クレー・センター（ベルン）蔵
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

兵庫県立美術館「芸術の館 友の会」事務局
〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

友の会のお知らせ

国内美術鑑賞旅行のお知らせ

「金沢21世紀美術館と文化施設を巡る旅」

2015年9月23日(水・祝)～24日(木) 一泊二日

今年度は前号でお知らせいたしましたように、北陸新幹線が開通し、人気絶頂の北陸の古都、「金沢」を訪ねます。第二次世界大戦の戦火を逃れ、伝統を受け継ぐ環境と文化が残った街です。

前田家伝来の武士の格式を守りつつ、金箔、加賀ちりめん、和菓子などの職人芸や美術工芸が盛んな一方、西田幾多郎、鈴木大拙、泉鏡花、高峰譲吉など思想家と文豪と科学者、事業家を輩出した街でもあります。また、近年はみなさまご存知の金沢21世紀美術館をはじめとして、鈴木大拙館など新たな文化の発信地として新旧取り混ぜた奥深い魅力満載の「金沢」。

夏の終わりの緑ゆたかな街を、伝統ある友の会の会員のみなさまと、ゆっくり、鑑賞の旅にでかけましょう。

皆さまの奮ってのご参加をお待ちいたします。

※詳しくはチラシへ→

（企画運営委員）

神戸ビエンナーレ2015

「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム展 割引情報」

○会 期：9月19日(土)～11月23日(月・祝) 10:00～18:00(入場は17:30まで)
○会 場：当館 ギャラリー棟3階
○団体割引料金：一般…800円、大学生…500円、65歳以上・高校生…400円

友の会会員証のご提示で、団体割引でチケットがご購入いただけます。この機会に是非ご利用くださいませ。
※貸館のため、友の会特別展無料枠には含まれません

友の会行事報告

街歩き見学会

「大阪ギャラリーめぐり ―アクアライナ― そしてお茶会」

2015年5月26日(火) 12:30～17:00
○参加者：15名 ○企画、引率：新谷里美(友の会副会長・企画運営委員)
○引 率：小林 公(当館学芸員)、宮崎恵美(友の会職員)

応募多数の抽選にラッキーにも当選し、大阪ギャラリーめぐりに参加させていただくことが出来ました。個人的なツボは「みんなカーゴ」を見たことです。最近『SF(ソーシャル・ファブリケーション)を実現する』という本を読んで、新興国では実用だけれど、日本では無用の用、即ちアートではないかと思っていたのです。まさに、アートコートギャラリーで出会えるなんて。県美にもファブラボ、できるといいなぁ。街の達人ならではのツアー、ありがとうございました。

（H・M／会員）

友の会会員交流会

2015年7月5日(日) 11:30～15:00 ○参加者：36名 ○場所：BBプラザ内「リストランテ ビッビ」

今年度より入会の新米会員です。美味しいイタリアンを頂きながらの会は終始和やかな雰囲気。会員の方々とも美術好きというキーワードで結ばれ会話が弾み、飯尾学芸員の堀文子先生とのエピソードや、岡本学芸員の、企画中展覧会への出品依頼で、今春渡英された話など、ここだけのレアなお話に思わずエキサイト！皆様とお会いして県美の一員であるという意識が生まれ、美術館に愛着が持てた有意義な初イベント参加になりました。

（M・S／会員）

日帰りバス旅行

「丹波焼のふるさと立杭を訪ねて ―美術館と登り窯、そして窯元めぐり―」

2015年6月13日(土) 8:30～16:30 ○参加者17名
○企画、引率：米田健司(友の会理事・企画運営委員)
○引 率：西田桐子(当館学芸員)、遊免寛子(当館学芸員)、宮崎恵美(友の会職員)

丹波焼は日常雑器なので古いものはほとんど残っておらず、兵庫陶芸美術館の唯一の鎌倉時代の壺は土門拳も所有していました。学芸員さんのお話をお聞きし、蛇窯を見て、お二人の窯元を巡る。美術を愛でる友の会の皆様との旅行は個人ではできない愉しみが満載でした。初夏の立杭の風は蒼く、黒豆アイスはやさしい甘さでした。

（A・I／会員）

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」前会長よりごあいさつ

兵庫県立美術館「芸術の館友の会」前会長 四方敦子

この5月の総会で、兵庫県立美術館芸術の館友の会の会長を退きました四方敦子です。2002年県立美術館が開館した年に理事となり、2012年より3年間会長を務めました。会員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。この12年間には、会員制度の改革があったり、友の会行事の企画運営に会員側からも参加するようになるなど、変化の多い年月であったと思います。現在、会員の皆様が美術館を、そして友の会を大いに楽しんでくださっていれば幸いです。これからも、変わらず顧問として友の会を支えたいと思います。皆様よろしくお願い致します。

県美プレミアムを味わう

「美術の中のかたち―手で見る造形」展は、当館前身の兵庫県立近代美術館の時代から数えて、26回目を迎えます。元号が平成に変わって以来、脈々と続けられてきた小企画展です。今年の出品作家、手塚愛子（てづか・あいこ）氏は、1976年東京に生まれ、近年はドイツのベルリンを拠点として精力的に活動を続けています。

手塚氏は、この展覧会のために、目の不自由な方とそうでない方の条件を同じにする、というアイディアを考えました。盲目の人のみが知る世界、目の見える人には見えていない世界がある。想像力を働かせることで、ひとつの美術作品を一緒に鑑賞することができるのではないか。氏のアイディアは、「美術の中のかたち」展の、視覚に偏りがちな美術鑑賞を問い直すという基本姿勢と重なります。

布と糸を用いた手塚氏の新作“Stardust Letters”は、彼女がベルリンから書き送った手紙がモチーフとなっています。部屋に張られた大きな網の目からたくさんの白い糸が垂れ下がり、それぞれの糸は網と接する部分で点字のパターンをかたちづくります。点字を習得していない人の目に映るのは、まるで星空のような模様です。英語の“letter”は、「手紙」であり「文字」でもあります。手塚氏の綴った長い手紙は、点字に訳され、触って読むことができます。「文（ふみ）」は、“letter”と同じく手紙であり文字を指しますが、「あや」と読めば、模様や織物の意味にもなります。

今回は、兵庫県立美術館所蔵の彫刻も合わせて展示されます。糸や点字、彫刻を触るという触覚だけでなく、言語も含め、さまざまな鑑賞が可能になることでしょう。

（鈴木慈子／当館学芸員）

手塚愛子《薄い膜、地下の森》2007年
撮影：市川勝弘（参考図版）

美術情報センターから

和雑誌『美術手帖』（美術出版社）

今回は、和雑誌『美術手帖』をご紹介します。

『美術手帖』は、国内外の最新アート＆アーティスト情報・展覧会情報・評論を掲載している、アートの現在（いま）を伝える美術雑誌です。毎号、様々な特集が組まれていて、最新号（7月4日現在）は「河鍋暁斎（かわなべきょうさい）」特集。専門的な内容だけではなく、マンガ等も交え、作家に関する入門書のように、気軽に読めて楽しめる内容になっています。また、9月19日から当館で開催する特別展「パウル・クレー　だれにもないしょ。」に関する記事も載っています。是非お手に取ってご覧下さい。

美術情報センターでは、専門図書だけではなく、美術雑誌も多数取り揃えています。開架に出ていないバックナンバーもございますので、その場合は、カウンターの職員にお気軽にお声かけ下さい。

開館3周年記念展

横尾忠則　続・Y字路

2015年8月8日（土）―11月23日（月・祝）

「Y字路」シリーズは、2000年に横尾忠則氏が故郷の西脇市で撮影した一枚の写真が出発点となっています。少年時代の想い出の場所を訪ねた横尾氏は、足繁く通った模型店が姿を消していることを知り、その跡地をカメラに収めます。しかし、現像された写真に写っていたのは、闇の中の見知らぬ風景でした。この時、横尾氏の意識に大きな変化が起こったのです。それまで自分自身の探究を通じて普遍性を獲得しようとしてきた横尾氏は、その制作手法をリセットし、「私」的なものを完全に排除した作品に取りかかりました。こうして、一片の郷愁もない三叉路の写真を忠実にキャンバスに写し取った、最初の「Y字路」が生まれたのでした。

当初、何の意味も持たなかった「Y字路」は、繰り返し描かれるうちに横尾氏の膨大なイメージの受け皿となり、いまや創造の実験場と化しています。本展では、2006年以降に制作された「Y字路」作品から約70点を紹介します。温泉地を巡って縁（ゆかり）のモチーフを詰め込んだ「温泉」シリーズ、全国各地の美術館での公開制作、実験的な連作「黒いY字路」など、「Y字路」づくしの展覧会です。

（平林恵／横尾忠則現代美術館学芸員）

横尾忠則《夢千代日記》2007年／2010年
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）

近隣展覧会情報

施設名／連絡先	展覧会名	会 期	休館日
横尾忠則現代美術館＊ ☎078-855-5607	・横尾忠則 続・Y字路	8/8(土)～11/23(月・祝)	月 曜 ただし、9/21(月・祝)は開館、9/24(木)は休館
BBプラザ美術館 ☎078-802-9286	・没後20年 泉茂の版画紀行 ・神戸ビエンナーレ2015兵庫・神戸の仲間たち展 ・現代陶芸展	7/7(火)～8/16(日) 9/19(土)～11/23(月・祝) 9/19(土)～11/23(月・祝)	月 曜 ただし、9/21(月・祝)は開館 8/17(月)～9/18(金)、9/24(木)は休館
神戸市立博物館 ☎078-391-0035	・プラハ国立美術工芸博物館所蔵 耀きの静と動 ボヘミアン・グラス ・南蛮美術企画展 美術セレクション animal編 ―聖フランシスコ・ザヴィエル像公開とともに― ・大英博物館展 ―100のモノが語る世界の歴史―	6/6(土)～8/30(日) 7/18(土)～8/30(日) 9/20(日)～1/11(月)	月 曜 ただし、9/21(月・祝)は開館 9/1(火)～9/2(水)、9/15(火)～9/19(土)は休館
西宮市大谷記念美術館 ☎0798-33-0164	・2015 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展	8/22(土)～9/27(日)	水 曜 ただし、9/23(水)は開館、9/24(木)は休館
芦屋市立美術博物館 ☎0797-38-5432	・浮世絵恋物語 ―浮いた話のひとつふたつ	8/12(水)～11/15(日)	月 曜 ただし、9/21(月・祝)は開館、9/24(木)は休館 8/3(月)～8/11(火)は展示替え期間のため休館
伊丹市立美術館 ☎072-772-7447	・ 写楽と豊国・役者絵と美人画の流れ ・ コレクション1 Room1カンヴァスよ、汚れよ ―鷲見康夫の50年代 Room2 Hot and Cool	7/11(土)～8/30(日) 9/12(土)～10/25(日)	月 曜 ただし、9/21(月・祝)は開館、9/24(木)は休館
尼崎市総合文化センター美術ホール ☎06-6487-0806	・つながるアートのちから	7/25(土)～8/23(日)	会期中無休
兵庫県立歴史博物館＊ ☎079-288-9011	・姫路 今むかし partⅡ ・北前船 ―地域と文化をつなぐ海のみち―	7/4(土)～8/30(日) 9/19(土)～11/3(火)	月 曜 ただし、9/21(月・祝)は開館、9/24(木)は休館
姫路市立美術館＊ ☎079-222-2288	・ なつかしい風景	8/8(土)～10/4(日)	月 曜 ただし、9/21(月・祝)は開館、9/24(木)は休館
兵庫陶芸美術館＊ ☎079-597-3961	・坐 丹波（夏） ―田中寛コレクション 蒐集の軌跡― ・THE TAMBA（秋） ―秋麗に古丹波を愛でる―	6/6(土)～9/6(日) 9/19(土)～11/29(日)	月 曜 ただし、9/21(月・祝)は開館、9/24(木)は休館
滋賀県立近代美術館 ☎077-543-2111	・夏休み子ども美術館「カゲとカタチの大ぼうけん！」 ・第39回全国高等学校総合文化祭「2015 滋賀びわこ総文」 ・志村ふくみ展 ―自然と継承―	6/30(火)～8/30(日) 7/28(火)～8/1(土) 8/8(土)～9/23(水・祝)	月 曜 ただし、9/21(月・祝)は開館、9/24(木)は休館

＊印がついている施設では、会員証の提示で割引などの特典が受けられます。
上記の展覧会内容、休館日等は、各施設の都合により変更になる場合があります。詳しくは、各施設にお問い合わせください。

保存修復担当学芸員のお仕事！

作品貸出にまつわるあれこれを、相澤学芸員にお聞きしました。

◆作品はどうやって運ばれていくのでしょう。

トラックや飛行機で運びます。使用する箱は重要で、器として作品に優しいものを用意します。輸送中の温湿度の変化や振動を見越した内装、ある程度の衝撃に耐えられるような外装を、その都度検討します。

◆箱の色は決まっているのですか。

白や青など色々ありますが、私はいつも白を指定します。暗いところや遠くからでもよく見えますし、傷や汚れが目立つため、途中でダメージを受けたときに分かりやすいという利点もあります。

◆目的地に到着しても、すぐには箱を開けないと聞きました。

気候の違うところへ移動すると、急激な温湿度の変化で結露等が起こって作品や額に影響が出ることがあります。そういう事態を避けるために、到着後は、その場所の環境に十分に慣らしてあげることが大切です。

◆作品を移動させる、というのは、かなりリスクを伴うことなのですね。

とはいえ、作品をお貸しすることには、意味があります。多くの方々に兵庫県立美術館の作品を見ていただける機会であり、作品にとってもスペシャルな舞台に送り出すわけですから、より良い状態で、場にふさわしい有り様にしてあげたい。そう思って、がんばっています。（つづく）

ダラス空港にて
貨物機より作品を下ろす様子

お知らせ

「ミュージアムロードのオブジェ《Sun Sister》が登場」

ミュージアムロード沿道の賑わい創出につながるオブジェ第2弾として、未来の希望を象徴するオブジェ《Sun Sister》が完成しました。

過去・現在・未来を見つめ、希望の象徴としての「輝く太陽」を手に持ち、大地に立つ少女像《Sun Sister》。作者のヤノベケンジさんは「震災20年の節目に設置できて意義深い。今後は皆さんにかわいがっていただければ。」と挨拶されました。

《Sun Sister》設置場所は、美術館南側・大階段下。ぜひ間近でご覧ください。

「2015県展」

会期：8月1日（土）―8月22日（土） ○会場：原田の森ギャラリー

夏の風物詩、県展が始まります。今回の県展には嬉しいニュースがあります。なんと新たな賞が創設されることになりました。これは奨励賞「（公財）伊藤文化財団賞」というもので、各部門の40歳未満の出品者を対象としています。将来の成長が期待される出品者への奨励の意味が込められていて、受賞者には副賞として5万円と記念品が贈られます。今年の県展からは、若手作家さんの活躍にも注目しながらお楽しみください。

編集後記

皆様、舟越桂展はもうご覧になりましたか？新しくできた作品解説を手にとって観賞すると、さらに作品に近付けるのではないでしょうか。暑い日が続きますが、ぜひ美術館で涼みながら、思い思いの夏をお過ごしくださいませ。

（宮崎／事務局）

兵庫県立美術館
「芸術の館友の会」会報誌
Sea Front Vol.79 2015年8月1日発行
編集・発行／兵庫県立美術館「芸術の館友の会」事務局
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL:078-262-0916 FAX:078-262-0903
http://www.artm.pref.hyogo.jp
E-mail:tomonokai@artm.pref.hyogo.jp

次号は10月発行予定です。

ウェブ版パスワード Aug8kv